

JOCジュニアオリンピックカップ
第41回全日本ジュニアバドミントン選手権大会山形県予選大会
監督・代表者会議資料

<競技上の注意>

1. 本大会は（公財）日本バドミントン協会競技規則、同運営規程並びに公認審判員規程により行います。
2. 進行状況に応じて試合開始時刻及びコートを変更する場合があります。
3. 試合が連続する場合のインターバルは10分間とします。
4. 試合の得点は、準決勝からは、21点3ゲームマッチ、その他の試合は、15点3ゲームマッチとします。
5. シャトルは、1種検定合格球とし、持ち寄りとします。ただし、各種別の準決勝・決勝は主催者で準備します。
6. ウェアは審査合格品とし、背面には、学校名、またはクラブ名（小学生のみ）を明示してください。背面布をウェアに取り付ける場合は4点をしっかり止めてください。
7. コート及び競技区域内において、選手、監督及びコーチ等のスマートフォン等の電子通信機器の使用を禁止します。
8. コートサイドには、カゴやドリンクケースを設置しません。給水のためのボトル、タオル、着替え用のウェア等をすべてラケットバック等に入れ、そのままフロアーに置いてください。チェンジエンスの際はそのまま持って移動してください。
9. コーチングシートは、1席のみとします。コーチングシートに入る際、競技規則に則り、マッチにふさわしい服装とし、上衣は、ユニフォーム、襟付きシャツ、ポロシャツ、ブラウス、下衣は、長ズボン（七分丈、短パンは不可）またはスカートとしてください。また、スリッパ、サンダルは禁止とします。使用后、椅子の座面、背もたれ等の消毒をお願いします。なお、コーチングシートに座ることができるのは、監督またはコーチ（両方いない場合は参加申込書に記載した引率責任者）とします。
10. 空きコートでの練習は禁止します。
11. 選手はコールされたら速やかにコートに入ってください。コールされてから5分経過しても入らない場合は、失格を宣する場合もあります。
12. 試合前後の握手は行わないでください。
13. 次の行為は慎んでください。
 - (1) プレー中に汗をぬぐって、そのままフロアーに飛ばすような行為
 - (2) シャトルコックを手から手への受け渡し（受け渡しはラケットを介してください。）
14. マッチ中の怪我や病気による中断は、原則としてレフェリーが判断し、相手選手への中断時間を主審に告げます。ただし、鼻血等の出血・嘔吐をした場合は、直ちに中断し、レフェリーの判断により医務役員が対応します。なお、当該選手（又は監督）からの棄権申告については、主審が受理します。

<審判上の注意>

1. 各試合のラインジャッジは、原則として当該選手の所属校又は所属地区より1名（監督、コーチでも可）の協力をお願いします。ただし、協力できるラインジャッジがない場合は、本部まで申し出てください。
2. 原則として、敗者審判制とします。敗者は、当該コートの次の試合について、複は、主審・得点係、単は、主審をお願いします。オーバールールは公認審判員が主審の際に適用します。トーナメント戦の準決勝より、公認審判員が主審を行います。
3. 主審は、得点毎のコールは行わず、必要最低限のコールのみとします。
4. ラインジャッジはアウトのコールを行わず、ジェスチャーのみとします。ラインジャッジ、得点係は、毎試合後、椅子の座面、背もたれ、得点版等の消毒を各自お願いします。加えて、各試合終了後、当該コートのモップ掛けをお願いします。
5. サービスジャッジは配置しません。なお、主審の目安となるよう、ポールの床面から115cmのところに目印を貼り付けます。

<その他>

1. 棄権は、申込み責任者から県バドミントン協会競技委員長あてにメールで連絡をお願いします。参加料は納付願います。（競技委員長 油井：thankyouty7@gmail.com）
2. 試合結果の速報は、Twitter「山形県バドミントン協会競技委員会」で行う予定です。（右図QRコード参照）

